

平成 28 年度事務事業評価表(一般事業・継続)

No. 110

事務事業名	ごみステーション化推進事業
-------	---------------

作成日	平成 28 年 9 月 30 日		
部局名	市民環境部		
課名	環境センター		
課長名	濱崎 賢二	内線	54-3100
担当者名	平地 俊夫	内線	54-3100

基本目標		機能的で環境と調和したまち
政策	050403	環境にやさしいまちづくり
施策		ごみの減量化と適正処理の推進
関連施策		

会計	一般会計		
款	4	衛生費	
項	2	清掃費	
目	1	清掃総務費	
事業コード	030500	ごみステーション化推進事業	

事業類型	5	負担金・補助金事業
個別計画		
重点事業	平成29年度重点事業	

【PLAN(計画)】

対象(者)	誰(何)に対して事業を行うか 戸別収集世帯、ステーション収集世帯の一部及び町内会長等		
意図	対象をどのような状態にしたいか ごみステーションの設置を行う町内会等地元住民の費用負担軽減を行うとともに、ごみ集積所のステーション化を促進させることにより、収集・運搬の効率化を図る。		
事業概要	意図を達成するために実施することは何か 町内会等によるごみステーションの整備に対し、補助金交付やカラスネットの貸与を行い、衛生的で効率性の高いステーション化の促進を行う。		
事業期間	平成 14 年度 ~ 平成 年度	実施方法	直営
根拠法令、要綱等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、大村市廃棄物の処理及び清掃に関する条例、一般廃棄物処理基本計画		
国・県補助事業に係る本市単独施策	無		

【DO(実施)】

指標名(上段:名称/下段:算定式等)		単位	25年度	26年度	27年度	28年度	備考	
活動指標	① 補助して整備されたステーションの数	計画値	4	4	4	11	平成28年度設置見込件数	
		実績値	3	5	5			
	② 可燃物ステーション数+資源物・不燃物用ステーション数	達成度	%	75.0%	125.0%	125.0%		
		計画値						
成果指標	① ステーション整備箇所数	計画値	4,051	4,170	4,315	4,430	前年度実績に平成28年度見込の数値を加算	
		実績値	4,166	4,311	4,419			
	② 可燃物ステーション数+資源物・不燃物用ステーション数(市内全域)	達成度	%	102.8%	103.4%	102.4%		
		計画値						
	②	実績値						
		達成度	%					

年 度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	全体計画
① 事業費(千円)	81	378	135	1,037	7,313	7,313	7,313	0
国庫支出金								
県支出金								
地方債								
その他					7,313			
一般財源	81	378	135	1,037		7,313	7,313	
② 人件費(千円)	795	756	705	727	事業内容	事業内容	事業内容	備考
職員人数(人)	0.10	0.10	0.10	0.10	ごみステーション化の促進	ごみステーション化の促進	ごみステーション化の促進	
時間外勤務(時間)								
嘱託等人数(人)								
フルコスト(①+②千円)	876	1,134	840	1,764				

※財源内訳中の「その他」には、保険料・寄付金・基金・利用料等の収入を記入しています。

【CHECK(評価)】

<b>事業の進捗状況</b> 昨年度の評価から、どのような取組をしましたか(昨年度の【ACTION】の改善・改革の進捗等)	開発協議などでステーションの新規設置、5件の整備補助金交付及び92件のカラスネット貸与を行い、収集運搬の効率化に努めたが、ステーション化率は横ばいのままである。
<b>事業が抱える問題・課題等</b>	ステーション収集世帯と戸別収集世帯で市民サービスの公平性が保たれていない。戸別収集地区に危険箇所が多数あり、危険箇所の解消と、ステーション化推進のための実施方針の作成が必要である。

<b>妥当性</b>	<b>【必要性】</b>	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし
	従来から、ごみステーションの設置、管理及び分別排出等については、町内会等地元住民の負担でお願いしてきており、整備補助金を交付することで住民負担を一部軽減することは、ごみ集積所のステーション化を推進するに当って重要と考える。また、ステーション化を推進することで収集の効率化が図られる。					
<b>有効性</b>	<b>【市の関与】</b>	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし
	本市では、収集方法についてステーション収集と戸別収集を実施しているが、収集効率を高めるため一般廃棄物処理基本計画でステーション収集を推進しており、市の関与が重要と考えられる。					
<b>有効性</b>	<b>【事業成果】</b>	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし
	町内会の協力により、毎年可燃ごみステーションの整備が行われている。					
<b>有効性</b>	<b>【施策貢献度】</b>	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし
	ステーション収集に対する市民の理解が得られ、分別排出が進むとともに収集効率が上がる。					
<b>効率性</b>	<b>【コスト】</b>	削減の余地なし		削減の余地あり		該当なし
	生活環境の保全及びごみの収集・運搬の効率化のための必要経費である。ステーション化を推進することで委託料のコスト削減が図られる。					
<b>効率性</b>	<b>【負担割合】</b>	見直しの余地なし		見直しの余地あり		該当なし
	町内会等地元住民の負担を軽減するものであり、現時点では見直しの余地はなし。					

※事業類型が1～3に該当する事業については妥当性及び有効性の評価は記入していません。

【ACTION(改善・改革)】

<b>今後の方向性</b>	拡充	
---------------	----	--

<b>内容</b> 今後の方向性のもとで、どのような取組をするか(課題や問題点等に対する取組など)	ステーション化100%を目指して推進していくことで、不公平感の解消に繋げていく。戸別収集危険箇所及び住宅密集地のステーション化を優先して実施する。その対応として、カラスネットの無償貸与を今までよりもさらに増やしていく。ステーション化が進んでいない地区を調査、研究しモデル地区を選定し、ステーション化を推進するための方策を検討していく。また、現行の補助金制度の取扱いや、ステーション化に向けた今後の展開についても検討し、実施方針を作成する。
<b>効果</b> 事業の改善・改革によって期待される効果は何か	市民サービスの公平化、収集経費の削減、景観の向上、交通の安全性向上、地域コミュニケーションの醸成、危機管理の向上、燃料費や二酸化炭素の削減

<b>1次評価</b>	<b>今後の方向性</b>	担当者意見のとおり		<b>2次評価</b>	対象外	<b>今後の方向性</b>
	<b>終期設定</b>				終期設定	
<b>意見等</b>	衛生的で機能的なごみステーション化の促進を図ることで快適な生活環境が保全され、併せてごみ収集の効率性を向上させることから、事業を拡充すべきである。			<b>内容</b>	重点事業として、市長以下で構成する「大村市都市経営戦略会議」において、審査の上採択されたため、2次評価は省略。	

※1次評価は事業担当課長等、2次評価は2次評価委員会によって行われます。